

2014年3月21日

学長 尾池和夫

平成25年度東北芸術工科大学卒業・修了式祝辞

本日、東北芸術工科大学博士の称号を授与された佐藤未希さん、修士の学位を得られた39名の方々、学士の学位を得られた457名の皆さん、まことにおめでとうございます。皆さんの今日までの学習の毎日を、しっかりと支援してこられた皆さんのご家族、先輩、後輩、友人たち、初等中等教育の期間に基礎を作って下さった恩師、皆さんは今、今までの人生のさまざまな場面を思い出しておられることでしょう。

ご家族の皆さま、まことにおめでとうございます。また、今日の式典を迎えた多くの人材を世界に送り出すため、大学の内外で教育の仕事をされた多くの教職員の皆さまに、ここからお礼を申し上げたいと思います。

皆さんが学習に励んだこの大学は、芸術とデザインを基本として、先ほど大和あすかさんが言われたように、科学と技術と学術と芸術という、人の学ぶべき基本がしっかりとそろっていて、それらに触れることのできる、めずらしい学習環境を持つ大学です。皆さんは、たいへん恵まれた学習環境の大学院を修了し、あるいは大学を卒業されました。その環境をどれだけ貪欲に自分の糧として取り込むことができたか、それが皆さんのこれからの人生に、広井砂希さんの言われた「卒業してからが本番」の通り、明日から具体的に現れることとなります。

皆さんが社会のあらゆる場面で活躍できるよう、東北芸術工科大学では大学の理念を基に、身につけるべき力として4つの力を定めています。人と自然を思いやる「想像力」は、地球社会の調和のとれた共存を基本とします。社会を変革する「創造力」は、これからの人類の生き方を考えます。問題提起と解決への強い意志の力、社会的・職業的自立のための能力、すなわちコミュニケーションの力です。

例えば、デザインの分野では、社会というフィールドに出てこれらの力を活用します。昨年、「藝術立国之碑」が、京都造形芸術大学と東北芸術工科大学に建立されました。その碑に刻まれている言葉の意味を深く考えることを、皆さんが卒業された後にも、重要なこととして記憶にとどめておいてほしいと思います。

今日は春分の日です。祝日法第2条では、「自然をたたえ、生物をいつくしむ」ということをこの祝日の趣旨としています。この祝日は前年の2月初めに正式に決定されます。南極点ではこの日に太陽が沈み、日本の秋分の日にもまた太陽が現れます。また、イランを中心に、中央アジアからアフリカの広い地域で農事に重要な祭日であり、イラン歴の元日で、国連が国際デーと決めています。今日の春分の日には、このようなさまざまなことも考えながら、宇宙や地球や命あるものを思うところで、芸術を通して世界の平和を実現しようという「藝術立国」の精神を大切にしていきたいと思います。

デザインの分野でも、この碑の言葉が大切です。この碑にある3行の言葉は、それぞれ天地人の思想であるとも言えます。この天地人がデザインに求められます。例えば、企画構想学科では、文化の多様性を尊重しつつ、人の幸せや喜びのための形を追求します。文化はきわめてローカルなものですが、デザインや技術はグローバルなものであります。

東北芸術工科大学副学長の片上義則（よしのり）先生のお仕事が知られていますが、その基本に流れるのが、身体障害者とデザイン、高齢化社会でのデザインという言葉です。これらの基本が、結局はよいデザインを生み出すのです。ロン・メイス博士が世界に呼びかけた「ユニバーサルデザインの7つの提案」がありますが、それも日本のこころにながれる「おもいやり」の精神に通じるものであると私は思います。それは、公平、自由、簡単、明確、安全、持続、空間というキーワードで表現されます。

このような皆さんの学習を実際に社会に適用する出来事が、皆さんが在学中にありました。東日本大震災の発生でした。この震災を引き起こした地震は、変動帯にある日本列島に基本的な自然の特性を、改めて私たちに教えるものでした。現在までに判明した死者15884名、行方不明2633名、山形県の死者2名も含まれています。震災関連死も、2916名とされています。

この震災の直後から、例えば「復興会議」は、震災発生の翌日、東北芸術工科大学の SNS コミュニティーから生まれた、東北芸術工科大学と山形大学の学生、教職員たちによる東北復興支援チームです。

在学中に発生した1000年に1度というような、この自然現象がもたらした災害の中で、皆さんは歴史の生き証人となって、その状況を見つめ、精一杯に行動し、あるいは支援活動をしてきました。その貴重な経験は人生の中できっと大きな役割を演ずることになることでしょう。

どうか、どんなに困難なことがあっても、くじけることなく、この母校を思い出して、友人を思い出して、何よりも心身の健康に留意しつつ、さまざまな道を力強く進んでくださることを祈っています。そしていよいよ困難に出会ったら、その解決のために母校がいつでも待っていることを忘れないでいてください。皆さんのご活躍とご多幸を祈りつつ、今日の皆さんの門出を祝う、私の言葉といたします。

本日、学位を得られた皆さま、あらためて、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。

尾池和夫